

修士論文

ソースコードの類似性に基づいたテストコード
自動推薦ツール

倉地 亮介

2020 年 1 月 28 日

奈良先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科 情報科学領域

本論文は奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科情報科学領域に
修士(工学) 授与の要件として提出した修士論文である。

倉地 亮介

審査委員：

飯田 元 教授	(主指導教員)
井上 美智子 教授	(副指導教員)
市川 晃平 准教授	(副指導教員)
崔 恩瀨 准教授	(京都工芸繊維大学)

ソースコードの類似性に基づいたテストコード 自動推薦ツール*

倉地 亮介

内容梗概

人類がこの地上に現われて以来、 π の計算には多くの関心が払われてきた。

本論文では、太陽と月を利用して π を低速に計算するための画期的なアルゴリズムを与える。

ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。
ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。
ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。
ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。
ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。

ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。
ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。
ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。
ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。
ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。ここには内容梗概を書く。

キーワード

π , 天文学, 数学, 計算機, アルゴリズム

*奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 情報科学領域 修士論文, 2020 年 1 月 28 日.

Automatic Test Suite Recommendation System based on Code Clone Detection*

Sentarou Nara

Abstract

Automatically generated tests tend to be less read-able and maintainable since they often do not consider the latent objective of the target code. Reusing existing tests might help address this problem. To this end, we present SuiteRec, a system that recommends reusable test suites based on code clone detection. Given a Java method, SuiteRec searches for its code clones from a code base collected from open-source projects, and then recommends test suites of the clones. It also provides the ranking of the recommended test suites computed based on the similarity between the input code and the cloned code. We evaluate SuiteRec with a human study of ten students. The results indicate that SuiteRec successfully recommends reusable test suites.

Keywords:

clone detection, recommendation system, software testing, unit test

*Master's Thesis, Division of Information Science, Graduate School of Science and Technology, Nara Institute of Science and Technology, January 28, 2020.

目 次

1. はじめに	1
1.1 過去における研究	1
1.2 研究の目的と意義	2
2. 現状と今後の課題	7
謝辞	8
参考文献	9
付録	10
A. おまけその1	10
B. おまけその2	10

図 目 次

1	Convolutional Neural Network (CNN)	1
2	これは図の例	2
3	おまけの図	10

表 目 次

1	これは表の例	2
---	------------------	---

図 1 Convolutional Neural Network (CNN)

1. はじめに

はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに
はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに
はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに

はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに
はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに
はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに はじめに

1.1 節では、過去における研究について述べ、2 章では、現状と今後の課題について述べる。また、付録 A におまけその 1 を添付する。

1.1 過去における研究

過去における研究としては [1] などがある。

過去における研究 過去における研究 過去における研究過去における研究 過去
における研究 過去における研究 過去における研究過去における研究 過去にお
ける研究 過去における研究 過去における研究過去における研究 過去にお

過去における研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去
における研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去にお
ける研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去にお
ける研究 過去における研究 過去における研究過去における研究 過去に
おける研究 過去における研究 過去における研究

過去における研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去
における研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去にお
ける研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去にお
ける研究 過去における研究 過去における研究 過去における研究過去にお
ける研究 過去における研究 過去における研究過去における研究 過去に
おける研究 過去における研究 過去における研究

目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義

研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の
目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意
義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の
目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義

研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の
目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意
義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義研究の
目的と意義研究の目的と意義研究の目的と意義

page is written in English. This page is written in English. This page is written in English. This page is written in English.

[illegible]

This page is written in English. This page is written in English. This page
is written in English. This page is written in English. This page is written in
English. This page is written in English. This page is written in English. This
page is written in English. This page is written in English. This page is written
in English. This page is written in English. This page is written in English. This
page is written in English. This page is written in English. This page is written
in English. This page is written in English.

2. 現状と今後の課題

現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状
と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後
の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後の課題
現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題

現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状
と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後
の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後の課題
現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題

現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状
と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後
の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題現状と今後の課題
現状と今後の課題 現状と今後の課題 現状と今後の課題

謝辭

Thank you. Thank you.

参考文献

- [1] A. Krizhevsky, I. Sutskever, and G.E. Hinton. Imagenet classification with deep convolutional neural networks. In *Advances in Neural Information Processing Systems 25(NIPS'12)*, pages 1097–1105, 2012.

これはおまけの図です。

図 3 おまけの図

付録

A. おまけその 1

これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。
これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。
これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。
これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。これはおまけです。

B. おまけその 2

これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。
これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。
これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。
これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。これもおまけです。